第６回旧遷喬尋常小学校校舎保存活用計画検討委員会会議概要

日　時　　令和６年３月２１日（木）午後１時
場　所　　真庭市役所３階会議室１
出席者
（委員）
東京大学生産技術研究所教授　腰原幹雄（web）、京都工芸繊維大学教授　清水重敦（web）、神戸大学名誉教授　北後明彦（web）、岡山理科大学建築歴史文化研究センター長・特任教授　江面嗣人（web）、(一社)岡山県建築士会ヘリテージマネージャー委員会委員長　山﨑真由美、真庭エスパス文化振興財団常務理事　髙柳克彦、グリッチ合同会社代表社員　黒田和美、真庭市副市長　伊藤敦哉、真庭市教育委員会教育長　三ツ宗宏
（オブザーバー）
岡山県教育庁文化財課副参事　渡邉恵里子（web）
（事務局）
生活環境部長　池田敏浩、教育委員会教育次長　武村良江、スポーツ・文化振興課長　佐山宣夫、生涯学習課長　谷岡理江、スポーツ・文化振興課課長補佐　佐藤尚、生涯学習課参事　森俊弘、スポーツ・文化振興課主幹　二宗政志、wyes architects　齋賀英二郎、（web）、wyes architects　八木香奈弥（web）
欠席者
まにワッショイ代表　岡本康治、ひとさじ代表　矢野光子、文化庁文化資源活用課主任文化財調査官　五島昌也

１　開会　午後１時

２　会長あいさつ
（腰原会長）
耐震補強の期間が長過ぎる、コストがかかりすぎるという話がどこの物件でも出てきている。そのあたりを打破できるようなことも考えながらこのプロジェクトを進めていただきたい。ご協力をお願いする。

３　報告事項（進行腰原会長）
［資料説明］
・第５回委員会後の取組・修正事項について（佐山課長、谷岡課長、齋賀氏より資料を説明）

［意見］
（北後委員）
38 ページについて、活用の内容に応じて消火器の本数や場所を検討しておく必要がある。具体的な活用を考えたうえでチェックするということがわかるようにした方がよい。

［資料説明］
・今後の予定について（二宗主幹、黒田委員より資料を説明）

［意見］
（北後委員）
防災計画のところで防火区域だけがピックアップされているが、そこだけが重要というわけではないので防災計画の項目の部分で何が一番重要なのかを抽出して書くほうがよい。

（江面副会長）
ダイジェスト版については、専門用語の部分は仕方がないが市民の方に広く読んでもらうためにも一度、一般の人にもチェックしてもらいたい。また、専門的にも確認が必要な表現がある。そのあたりをもう一度精査する必要がある。

（腰原会長）
ダイジェスト版は市民に配布するのか。市外の人に配布するのか。あるいは旧遷喬小学校に通った人に配られるのか。どういう配布を想定しているのか。

（佐山課長）
市民向けの説明会などでの説明資料を想定している。また、来年度に可能であれば各地区での回覧をしたいと考えている。今のところ市外向けは想定していないがホームページ等には掲載したいと考えているので市外の方も見られる環境は作っていきたい。

（腰原会長）
誰を対象として何を伝えたいかによって専門用語の度合いなども変わってくるので対象を整理したうえで使用する言葉を考えたほうが良い。
もう一点はこのダイジェスト版が真庭市の他の文化財保全活動のメッセージになるようなものがあると良い。冒頭に「真庭市内唯一の重要文化財（建造物）」とあるが、いろいろな建物を同じように守っていくという啓蒙になれば良い気がした。

［全６回の委員会を通じての委員の感想］
（北後委員）
今後も保存活用計画は様々に発展していくと思う。その発展に適用するような内容になっているか常に検討していただきたい。

（清水委員）
保存活用計画の検討を通じて新たに掘り起こせた価値もあったと思う。建物としてどういう特徴があるかということだけでなく、この山深い地にモニュメンタルな建物があることで、他では得られない風景がここにあることをぜひ付け加えて対外的な PR をしていただきたい。

（腰原会長）
全国の尋常小学校をけん引していけるよう、先ほどのダイジェスト版などで建物に興味を持ってもらい、今後、色々な建物を考えてもらう機会になればいいと思う。そういう意味でもよい活用をしていただきたい。

（髙柳委員）
管理をしている立場として、工事が完了した後の管理をどうしていくのかも考えていかないといけない。また、来年度に予定されている旧遷喬尋常小学校周辺環境調査の中で、より旧遷喬尋常小学校が活きるようにエスパスランド全体を考えていかないといけない。
また、１０年後に次世代のメンバーが育ち、実際に活用していけるよう引き継いでいきたい。

（黒田委員）
委員会全体を通じて１番記憶に残っているのは第１回の検討委員会の時に江面副会長が「文化財は人づくりのためにある」と言われたこと。旧遷喬尋常小学校は卒業生だけのものではなく、全国の仲間と一緒に今後できることを考えるだけで楽しみが広がる。

（山﨑委員）
今回の計画策定を通じて、旧遷喬尋常小学校は市民、県民また全国の方々にも愛されている校舎であることを実感した。今後も活用計画に沿って皆さんと一緒に活用していきたい。

（伊藤委員）
保存活用計画の策定はスタートで、今後、計画をどのように実現していくかが大きなテーマになっていく。最近、市民の方からも旧遷喬尋常小学校について聞かれる機会が増えてきた。ただ、内容については一部しか伝わっていないと感じている。本日の委員会で説明のあったダイジェスト版などを使って、旧遷喬尋常小学校の価値や今後の活用方法を正確に伝えていくことがまずは必要。旧遷喬尋常小学校は建物の活用を通じて地域づくりや人づくり、真庭の将来につなげていきたい。今後も保存活用計画実現のために市民の方を巻き込んだ議論を市として取り組んでいきたい。その中でも引き続き委員の皆様方にもご協力をお願いしたい。

（三ツ委員）
委員会全体を通じて１番感じたことは、暮らしの中にある旧遷喬尋常小学校を含む景観を大事にしていきたい、次世代につないでいきたいということ。それぞれが今後の取組に関わり、そこで何かを一緒にやり、生み出す。そういうつながりの中ではじめて自分のものになっていく。それが人づくりのプロセスだと思う。こういったことを大事に市民の皆さまと対話をしながら保存、活用を考えていきたい。

（江面副会長）
今回の保存活用計画検討委員会、また、前身の整備・活用検討委員会から関わらせてもらった。これまで、全国的にも活用について明確に議論されることがなかったが、現在は活用について考えることが大事だと理解されるようになってきた。しかし、本来の活用の理解、議論がまだ十分でないと感じている。文化財は人づくりに役立てていくべきだと考えている。それは人と環境のあり方を見つめ直すのに非常に意味がある。今回の委員会を通じてこの点をどのように伝えていくべきかを考えてきたが、本日の委員会での意見を聞いて、一定の進展があったと感じている。旧遷喬尋常小学校校舎保存活用計画には「人材の育成（ひとづくり）」という言葉が入っており、この計画を通じて日本全体にもそういった趣旨を伝えていきたい。また、計画でまとめた方針を市民に伝え、生かしていく施策をさらに進めてもらいたい。

４　閉会　午後２時